

小学校図画工作科との関連を意識した地域活動の実践～「こどもものづくり大学校」における指導～

Practicing local activities conscious of their relationship with elementary school arts and crafts: Teaching at “Children’s Manufacturing College”.

市川 治郎
ICHIKAWA Jiro

キーワード：小学校図画工作科、地域活動の実践、こどもものづくり大学校

Keywords：Elementary school arts and crafts, Practice of local activities, Children’s Manufacturing College

At Nagaoka Institute of Design, we have opened the “Children’s Manufacturing College” as a place for local children to develop their rich sensibilities and creativity through monozukuri from the viewpoint of “manabi” and “play”, and to create free ideas. In 2020, because the world was at the mercy of the new coronavirus threat, this effort was also canceled from the viewpoint of infection prevention, but look back on the efforts in 2019 and record the plan and practice as a research note. I would like to use it as a reference for future resumption.

1. はじめに

長岡造形大学では、地域の子どもたちが「まなび」と「あそび」の観点から、ものづくりを通して豊かな感性と創造力を育み、自由な発想をかたちにする場として「こどもものづくり大学校」を開講している。2020年は世界中が新型コロナウイルスの脅威に翻弄されたため、感染防止の観点から残念ながらこの取組みも中止となったが、2019年における「大空に夢を飛ばそう」という取組みを振り返り、その計画や実践の様子を研究ノートとして記録することを通し、今後の再開に向けた参考としたい。

2. 研究の目的

この取組みでは、小学校3年生から6年生までの児童を対象として、長岡市内ほか県内各地から参加している。小学生を対象とする表現活動であることから、楽しいものづくりのイベントとしてだけではなく、子どもたちの発

達の段階を考慮しつつ、小学校図画工作科の中学年（3年、4年）及び高学年（5年、6年）の目標や内容を参考として、指導方法を検討することとした。



1 真剣な眼差しで作り方の説明を聞く子どもたち



2 長岡造形大学の空に揚がるビニール凧



3 凧を室内で揚げるために疾走する子どもたち



4 あまり強い風がなくても良く揚がる構造の凧



5 長岡造形大学の広々とした芝地で楽しく凧揚げ

3. 小学校図画工作科の目標と内容との関連

文部科学省の小学校学習指導要領第7節図画工作では、その目標を次のカッコ内のように定めている。

「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。」

これらの目標の趣旨を、今回の「大空に夢を飛ばそう」の題材設定や制作活動の指導に生かすこととした。

また、各学年の目標は次の表のように示されている。

	第1学年及び 第2学年	第3学年及び 第4学年	第5学年及び 第6学年
「知識及び技能」	(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して気付くとともに、手や体全体の感覚などを働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。	(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して分かるとともに、手や体全体を十分に働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。	(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を活用し、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
「思考力、判断力、表現力等」	(2) 造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて考え、楽しく発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。	(2) 造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについて考え、豊かに発想や構想をしたり、身近にある作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。	(2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、親しみのある作品などから自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
「学びに向かう力、人間性等」	(3) 楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う。	(3) 進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。	(3) 主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

(第3学年から第6学年までの枠組みを強調表示した)

4. 指導計画と留意事項

実施にあたっての準備や指導計画、留意事項等は以下の通りである。

- (1) 参加者への案内や通知、材料等の必要物品の準備については、全て所管する地域協創課が実施した。
- (2) 制作に必要な材料や道具類は以下の写真の通りである。



6 材料と道具類

- (3) 半透明のポリ袋に色マジックで着色することにより、空に揚げた時、太陽光線を透かして美しい色彩を感じることができる。またストローは、骨組みを作る時に自由度の高い素材である。できるだけ身近な素材を使用することにより、こどもものづくり大学校での制作だけでなく、自宅に帰ってからも子どもたちが再チャレンジできることをねらいとした。
- (4) 取り扱いに注意を要する道具としては、ハサミとカッターナイフがある。どちらも小学校3年生以降であれば、学校での使用経験があるものと想定した。

5. 制作の実際と凧揚げの様子、まとめ

- (1) 導入。指導者の挨拶と自己紹介。担当スタッフの紹介。「大空に夢を飛ばそう」の題材説明。ビニールを使って凧を作り屋外で凧揚げすることについて説明した。子どもたちの期待を高めるために、これまでの凧揚げの経験や凧揚げについて、子どもたち一人一人の思いを自由に発言させた。
- (2) 展開。ビニール凧を実際に作るための手順を説明した。作る凧は平面凧と立体凧の2種類であるが、立体凧の制作は3年生段階の子どもにはやや難しい題材であるため、まずは全員が平面凧を完成させ、その後立体凧の制作を進めるようにと説明した。平面凧の制作の際に比較的難しいのは、滑りやすいビニール素材を適切な形体に裁断することであった。ハサミやカッターナイフの扱いに習熟していれば、片手でビニール素材を

押さえながら、刃物をうまく力加減して扱えるが、近頃の子どもたちは日常の生活体験の中でも刃物を扱うことが少なくなっているためか、6年生段階でもハサミやカッターナイフの使い方について丁寧に説明する必要がある場合もあった。使えるとみられる子どもであっても、思わぬ危険な扱い方をする場合もあるため、制作中はしっかりと観察する必要がある。

- (3) まとめ。完成したビニール凧を持って、屋外の芝地で凧揚げを実施した。本取組みは同一の内容で各回20名を対象として4回実施したが、天候不良であった回のみ、屋内ホールで凧揚げを実施した。やはり屋内で



7 導入の挨拶と自己紹介 凧揚げについて説明した



8 平面凧が室内でも簡単に揚がる様子を見せた



9 机上に材料を広げて制作した

は風がなく、かなり速度を上げて走り回らないとうまく揚がらなかった。

子どもたちは風を揚げるために元気よく走り回り、うまく上昇気流をつかめた子どもの風は空高く舞い上がった。

今回の取り組みを通して、図画工作の目標である「材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすること」「造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えること」「つくりだす喜びを味わうこと」などにつながったことが成果である。



10 ハサミを使って材料を裁断した



11 立体風を組み立てた



12 天候不良のためNIDホール内での風揚げ



13 天気の良い時には広々とした屋外で風揚げができた



14 風の方向とタイミングをつかむのが難しかった

ゆめ
大空へ夢を
と飛ばそう！

工作

講師：市川 治郎

講座内容
身近な材料を使って、よくあがる風をつくります。
ひとり一人の夢を描いて、大空へ向けて飛ばしましょう！

講師の先生からのコメント
長閑の美しく広い大空に向けて、子どもたちの大きな夢が思い思いの色や形で風に揺られて揚がりました。ほんの少しの風が吹いただけで本当に空高く揚がるので、子どもたちはみんな楽しそうな歓声を上げて走り回っていました。身の回りで簡単に手に入られる材料を使って作ることができるため今回の体験をきっかけとして、子どもたちはきっとご家庭でも再チャレンジしてくれたことでしょう。

15 こどもものづくり大学校「大空へ夢を飛ばそう」